

内藤鳴雪 （内藤 鳴雪） 俳人。弘化四年四月十五日江戸生れ、大正十五年一月二十日歿（八四七一九三）。本名素行、幼名助之進。別號南塘、南塘生、破蕉、老梅居、老梅居士人、迷拙、迷説、鳴雪生、内藤師道、内藤永貞。文部省参事官等を経て、葛松山藩の常盤會舎監となり、舎生正岡子規の影響を句作、爾來子規派の最長老として活躍。

著書『創作苦心談』（公著・新聲社編、明治二十四年三月五日新聲社）、大塚甲山編『俳句選』（選評、第一編、明治二十四年八月二十

四日、第二編、二十五年八月二十一日内外出版協會）、『せみしぐれ

一春卿集』二（公著・武定鈔七編、明治二十五年八月二十五日大阪・

金尾文淵堂書店）、『俳句獨習』（鼠骨編、明治二十六年十一月二十

一日大學館『俳句入門叢書』）、『春芭蕉俳句評釋』（明治二十七年

五月十四日大學館『俳句入門叢書』）、『秋芭蕉俳句評釋』（明治二十

七年六月二十四日大學館『俳句入門叢書』）、『春大家模範俳句集』

（寒川鼠骨共選、明治二十八年四月十七日大學館『俳句入門叢書』）、

『七部集俳句評釋』（鼠骨編、明治二十八年六月十四日大學館『俳句

入門叢書』）、『秋大家模範俳句集』（寒川鼠骨共選、明治二十八年

十一月十五日大學館『俳句入門叢書』）、『秋葦村七部集俳句評釋』

（明治二十九年十一月十五日大學館

『初學俳句叢書』）、『老梅居俳句

問答』全二冊（上巻、下巻、明治四

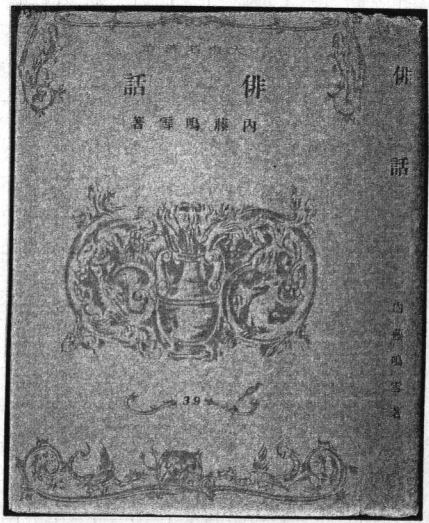
十年四月一日

俳書堂『俳諧

叢書』）、『廿九



家俳句講義』(内題「元祿」千家俳句講義」松濱筆記、二版・明治四
 十年四月一日俳書堂)、 『老梅活雜著』(明治四十年五月十八日俳書
 堂)、 『鳴雪俳話』(明治四十年十一月二十八日博文館)、 『古今名流
 俳句談』(合著・沼波境音編、明治四十一年八月二十八日内外出版
 協會)、 『鳴雪俳話と評釋』(明治四十一年十一月十八日博文館)、 『春
 大祇俳句評釋』(明治四十一年十一月十日大響館「初學俳句叢書」)、
 『現代俳句』二家集』(河東碧梧桐合著・高木米神編、明治四十四年五
 月七日大阪・文徳堂本店)、 『中外俳句抄』(撰、大正二年二月七日
 求光閣書店)、 『現代文章作法』(合著、大正四年一月五日、再刊・五
 月二日忠誠堂出版部)、 『鳴雪俳句鈔』(大正四年四月十日實業之日
 本社)、 『子規句集講義』(論講共著・青峯筆記、大正五年八月十日
 俳書堂)、 『句評及俳話』(武田鷺塘共著、大正五年十月二十六日雲
 泉堂)、 『謠と能のわびぐち』(合著・能樂成談會、坂元雪鳥編、大
 正七年四月二日磯部申陽堂)、 『大わき』(合著・戸川殘花編、大正
 七年十二月二日、二進堂書店、清和堂書店)、 『俳句はひかひ作らひかひ味ふか』(大
 正九年二月八日ヤルス)、 『鳴雪句敘傳』(大正十一年六月二十五日
 岡村書店)、 『新ら俳句と其作法』(佐藤紅綠共著、大正十二年六月
 二十八日南大堂出版部)、 『俳句評
 釋』(大正十四年九月二十八日忠誠
 堂)、 『鳴雪俳句集』(松浦爲王編、
 大正十五年六月十五日春秋社)、 『新
 ら俳句の作法』(昭和二年五月一
 十日資文堂書店)、 『俳話』(紫田



齊曲解題 冊約十七年七月二十五日大東出版社「大東名著選」等。